

## 〈看護学科〉

### 基礎看護学 1

教授：芳賀佐和子 基礎看護学 1  
准教授：平尾真智子 基礎看護学 1  
講師：菊池麻由美 基礎看護学 1

#### 教育・研究概要

#### I. 教育方法・評価に関する研究

##### 1) フィジカルアセスメントの教授法

1 年次後期に 30 時間で教授する全身の系統的アセスメントの講義や演習の教授法について、特に呼吸器系のアセスメントの授業展開を研究した。また、フィジカルアセスメントを用いた看護介入による老年者の身体情報と心理的反応について研究した。

看護者がフィジカルアセスメントの技術を学ぶための標準的なテキストの改定第 3 版を発刊した。

##### 2) 症状マネージメントの教授法

ナイチンゲールの著作から、看護学生が講義や実習を通して症状をどのようにとらえ、どのように学ぶのかを明らかにし、現代に活用できる内容を明らかにした。

#### II. 看護診断に関する研究

看護診断のひとつの診断名である「急性疼痛」に関して、「急性疼痛」と診断された患者状況に対する看護師の臨床判断の適切性について看護記録からの事例分析を行った。また電子カルテシステムに NNN を導入している施設の看護記録の監査に関する質的な分析も行った。

#### III. 看護歴史に関する研究

##### 1) 日本看護歴史研究

① 高木兼寛の健康教育観について、大正期の臨時教育会議における高等・大学教育に関する発言内容から明らかにした。また高木兼寛の女子健康観について、明治・大正期の婦人雑誌・新聞の記事から分析した。

##### ② 慈恵の看護の歴史

教育所卒業生保良せきが発刊した戦前の看護専門雑誌『看護婦』のなかから保良がナイチンゲールについて書かれた記事の内容を分析した。

##### ③ 日本の占領期に長野県の保健婦によって発刊

された保健婦の雑誌の GHQ による検閲状況についてアメリカのメリーランド大学ブランゲ文庫に所蔵されている資料から明らかにした。

④ 江戸時代後期の町医者で看護に関する著作を著わした平野重誠の看護観について明らかにした。また彼の代表的著作である江戸時代の看護書『病家須知』にみられる自然治癒力の概念について明らかにした。

##### 2) ナイチンゲールに関する研究

ナイチンゲールの著作から、看護学生の症状の学び方を明らかにした。

#### 「点検・評価」

それぞれが研究テーマをもち継続的に研究する一方で、基礎看護学領域として看護基礎教育課程での「フィジカルアセスメント能力の育成」に関しては領域としての研究を継続している。また、症状マネージメント教育のための教授法の研究を行った。今後も教育方法については、さらにテーマを広げ継続し協力しながら研究を進めていきたい。

また、看護学の発展や方向性に関する示唆を得るための看護歴史研究や本学のスクールミッションにも関係する慈恵の看護歴史研究も継続していきたい。

## 研究業績

#### II. 総説

- 1) 芳賀佐和子, 羽入千悦子, 菊池麻由美, 平尾真智子, 青木紀子. 【基礎教育編 フィジカルアセスメント教育の進め方, 教材の選び方】 フィジカルアセスメント授業展開の実際. 看人材教 2007; 4(4): 107-19.

#### III. 学会発表

- 1) 芳賀佐和子, 平尾真智子, 蝦名総子. 高木兼寛の健康教育観に関する研究 (第 2 報) - 臨時教育会議での高等・大学教育に関する発言内容から. 第 108 回日本医史学会. 大阪, 4 月. [日医史誌 2007; 53(1): 70-1]
- 2) 平尾真智子, 芳賀佐和子. 雑誌『看護婦』にみる保良せきのナイチンゲール観. 第 27 回日本看護科学学会学術集会. 東京, 12 月. [日看科学会講集 2007; 27: 192]
- 3) 平尾真智子, 大道寺慶子 (ロンドン大学). 平野重誠. 『病家須知』(1832) にみる自然治癒力の概念. 西洋

医学教育発祥 150 年記念国際医学史科学史会議. 長崎, 11 月. [西洋医学教育発祥 150 年記念国際医学史科学史会議プログラム抄録集 2007; 27]

- 4) 大石杉乃, 喜多加奈子, 平尾真智子, 芳賀佐和子. 占領期の医療・看護に関する出版物の検閲 (3) - 長野県における保健婦の活動. 第 108 回日本医史学会. 大阪, 4 月. [日医史誌 2007; 53(1): 100-1]
- 5) 蝦名総子, 平尾真智子, 芳賀佐和子. 明治から大正期の婦人雑誌・新聞にみる高木兼寛の女子健康観. 第 21 回日本看護歴史学会学術集会. 京都, 9 月. [第 21 回日本看護歴史学会学術集会講演集]
- 6) 中藤三千代 (東京ハートセンター), 黒田裕子 (北里大学), 棚橋恭之, 高原静子, 柳谷博幸 (東京臨海病院), 津田泰伸 (亀田総合病院), 斎藤紋子 (静岡赤十字病院), 原田竜三 (神奈川県立保健福祉大学), 菊池麻由美, 小泉純子 (新座志木中央総合病院). NANDA-NIC-NOC が電子化されている施設における看護記録の監査に関する質的分析. 第 13 回日本看護診断学会. 大阪, 6 月. [看診断 2007; 12(2): 177-8]
- 7) 羽入千悦子. フィジカルアセスメントを用いた看護介入による老年者の身体情報と心理的反応. 第 6 回日本看護技術学会学術集会. 前橋, 10 月.

#### IV. 著 書

- 1) 加藤文三, 平尾真智子編, 石井 勉絵. 日本人のちと健康の歴史 3: 西洋医学がやってきた (近世). 東京: 農山漁村文化協会, 2008.
- 2) 小野田千枝子 (イリノイ大学) 監修, 高橋照子 (西武文理大学), 芳賀佐和子, 佐藤富美子 (山形大学) 編. 実践! フィジカルアセスメント: 看護者としての基礎技術. 改訂第 3 版. 東京: 金原出版, 2008.

#### V. その他

- 1) 斎藤紋子 (静岡赤十字病院), 黒田裕子, 棚橋泰之, 柳谷博幸, 菊池麻由美, 津田泰伸, 五藤陽子, 下舞紀美代, 原田竜三. “急性疼痛” と診断された患者状況に対する看護師の臨床判断の適切性に関する質的追究 看護記録からの事例分析. 看診断 2007; 12(1): 14-26.

## 基礎看護学 2

准教授: 大石 杉乃 看護情報管理学 看護管理学 看護歴史学

### 教育・研究概要

#### I. 看護情報管理学に関する研究

1988 年から 2007 年の時点で最新の値が得られる 2004 年までを対象にし, 看護師と准看護師の数と比率の変動, 就業場所や地域による差, およびこれら

に影響を及ぼす要因との関係を検討した。47 都道府県を対象に公的データを用い, 定量的分析を行った。その結果, 全国的にすべての就業場所において看護師化 (看護師・准看護師総数に占める看護師の割合が高いこと) が進んでいるが, 人口構成の変化や医療制度の変更などに伴って, 就業場所による看護構造の分化が進んでいることが明らかになった。また, 看護構造の地域差が固定する傾向が示され, 老年人口割合や地域の経済力が地域差を生じる要因と考えられた。

本学の教育においては, 「情報科学」の講義の中で, 研究方法と成果を紹介した。

#### II. ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵検閲史料の分析による占領下日本の医療・看護の状況と GHQ による検閲の実情に関する研究

米国メリーランド大学図書館ゴードン・W・プランゲ文庫 (以下, プランゲ文庫) には占領下日本において 1945 年から 1949 年に出版された刊行物とその検閲記録が所蔵されている。本研究の目的は GHQ 文書 (GHQ/SCAP Records) の公衆衛生福祉局に関する記録 (PH&W Records) からは評価出来なかった, 医療および看護に関する GHQ の方針と実態を明らかにするとともに, 当時の日本における医療・看護関係物物の発刊状況を明らかにすることである。プランゲ文庫の史料を分析した結果, 以下のことが明らかになった。1) 公衆衛生福祉局 (PH & W) は, 看護系雑誌の発行において独自の検閲を行っていた。2) GHQ の関心は占領の段階 (時期) により変化していた。3) 日本側には記録が残されていない看護系雑誌の発行数および発行頻度の実態。4) 占領期には日本看護協会の支部機関誌が発行されたが単発で終わっていた。

#### III. 第二次世界大戦後の看護改革に関する研究

現在の看護の法律や教育制度の基礎は, 連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ) 看護課により, 占領下に築かれた。しかし, わが国の実情などに応じて様々な改変が行われている。GHQ が行った看護の変革が現在までどのように変遷してきたかを, 社会的な要因, アメリカの国立公文書館や日本の国会図書館などで収集した史料, GHQ 関係者からのインタビューや書簡などの情報にもとづいて分析している。研究の目的は, GHQ が理想とした看護の理想像と日本の実情とに乖離が生じた要因, GHQ と日本側関係者がこれらの問題をどのように解決していったかを明らかにすることである。

本学の教育においては、「看護マネジメント」の講義の中で、研究方法と成果を紹介した。

#### 「点検・評価」

看護情報管理学に関しては、最新の情報を更新し、研究を継続している。また、看護および看護教育の実態分析と、歴史研究により、看護政策に関する情報の収集分析を継続している。

講義において、これらの研究方法と成果を紹介し、学生に看護研究の必要性を伝えるとともに看護研究に対する興味を喚起するように努力している。

### 研究業績

#### I. 原著論文

- 1) 大石杉乃. 1998年から2004年における看護構造の経年変化と地域格差. 慈恵医大誌 2008; 123(1): 15-25.

#### III. 学会発表

- 1) 大石杉乃, 喜多加奈子, 平尾真智子, 芳賀佐和子. 占領期の医療・看護に関する出版物の検閲 (3)一長野県における保健婦の活動一. 第108回日本医学学会. 大阪, 4月. [日医史誌 2007; 53(1): 100-1]
- 2) 大石杉乃, 平尾真智子, 芳賀佐和子. 1947年以降のGHQの検閲—プランク文庫『愛のひかり』史料の分析一. 第27回日本看護科学学会. 東京, 12月.

#### V. その他

- 1) 大石杉乃, 平尾真智子, 芳賀佐和子, 喜多加奈子. ゴードン・W・プランク文庫所蔵検閲史料によるGHQ医療・看護制度の評価. 平成16・17・18・19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))報告書 2008; 1-93.
- 2) 大石杉乃. 在宅介護は楽しい—一期限付き介護体験からの学び—. 訪問看護と介護 2007; 12(5): 388-94.

## 成人看護学

教授: 藤野 彰子      がん看護学, 緩和ケア  
 講師: 渡邊 知映      がん看護学, 化学療法とQOL

#### 教育・研究概要

本学卒業生における医療安全の観点からみた看護技術に関する困難度と成人看護学実習に求められるリスクマネジメント教育のあり方の検討を行った。本学科の過去3年間の卒業生のうち本院に勤務しているもの35名から回答を得た。大学教育の中で学んだ看護技術が医療安全の観点から十分なもの

だったかとの問いには多くの卒業生が「あまり十分ではなかった」と解答し、卒業生の多くが入職後、点滴・内服に関する技術に不安を感じていることが明らかになった。これらの結果は、学内演習項目の検討や臨地実習の方法等を考える基礎データとなった。

藤野は緩和ケア病棟に勤務する看護師のインタビューを通し、ケアリングタッチの重要性について明らかにした。

渡邊は、がん化学療法後の性腺機能障害に関する情報提供のあり方について全国調査を行い、その結果をもとに化学療法を受ける患者とその家族の支援のための小冊子を発行した。

#### 「点検・評価」

成人看護学実習に求められるリスクマネジメント教育のあり方の検討から、看護技術の内容を検討し、点滴の管理、救急蘇生、心電図等を学内演習に取り入れ、また、手術室、ICU、血液浄化部等の臨地実習をも導入することで、学生の看護技術の見学や体験が増加した。これは学生にとって意義があり継続したい。

一方、准教授が欠員であり、各教員の研究が、遅滞してしまったことが反省点である。

### 研究業績

#### I. 原著論文

- 1) Ennishi D<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Mishima Y<sup>2)</sup>, Watanabe C, Terui Y<sup>2)</sup>, Takahashi S<sup>2)</sup>, Takeuchi K<sup>2)</sup>, Ikeda K<sup>2)</sup>, Tanimoto M<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Okayama Univ), Hatake K<sup>2)</sup>(<sup>2</sup>Cancer Institute Hospital). Rituximab plus CHOP as an initial chemotherapy for patients with disseminated MALT lymphoma. Leuk Lymphoma 2007; 48(11): 2241-3.
- 2) 渡邊知映, 高橋 都<sup>1)</sup>, 甲斐一郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>東京大学). 化学療法に伴う性腺機能障害への血液内科医の意識と情報提供の実態調査. 癌と化療 2007; 34(6): 891-6.
- 3) 松田正典<sup>1)</sup>, 松阪 諭<sup>1)</sup>, 久保木恭利<sup>1)</sup>, 市村 崇<sup>1)</sup>, 小倉真理子<sup>1)</sup>, 末永光邦<sup>1)</sup>, 庄司大吾<sup>1)</sup>, 渡邊知映, 陳 勁松<sup>1)</sup>, 水沼信之<sup>1)</sup>, 畠 清彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>癌研有明病院). 進行大腸癌に対するFOLFOX4療法による末梢神経障害の回復の解析. 癌と化療 2008; 35(3): 461-6.

#### III. 学会発表

- 1) 渡邊知映, 伊藤良則<sup>1)</sup>, 岡南裕子<sup>1)</sup>, 飯島耕太郎<sup>1)</sup>, 岩瀬拓士<sup>1)</sup>, 徳留なほみ<sup>1)</sup>, 高橋俊二<sup>1)</sup>, 畠 清彦<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>癌研有明病院). 早期乳癌患者における化学療法誘発無月経に関する実態調査. 第15回日本乳癌学会. 横浜, 6月.

- 2) Fujino S. Caring touch by nurses on palliative care in Japan. ICN (International Council of Nurses) 2007 International Conference. Yokohama, May.
- 3) 竹下圭介<sup>1)</sup>, 松本由美<sup>1)</sup>, 藤代志保<sup>1)</sup>, 李 祐賢<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>りんくう総合医療センター), 渡邊知映, 造血幹細胞移植を受けた患者のセクシュアリティに関する調査—退院パンフレットの検討, 第30回日本造血細胞移植学会総会, 大阪, 2月.
- 4) 渡邊知映, 伊藤良則 (癌研有明病院). 乳がん患者における化学療法誘発無月経の実態と治療後の挙児に関する心理的変化, 第22回日本がん看護学会学術集会, 名古屋, 2月. [日がん看会誌 2008; 22: 170]

#### IV. 著 書

- 1) 渡邊知映, 第2章: III 排泄: ストーマケア, 藤野彰子, 長谷部佳子 (日本赤十字北海道看護大学), 安達祐子 (日本赤十字看護大学) 監修, 看護技術ベーシックス, 改訂版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 182-7.
- 2) 藤野彰子, リラクセーション, マッサージ, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 310-7.
- 3) 藤野彰子, スワングアンツカテテル, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 556-61.
- 4) 藤野彰子, 救急救命, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 578-605.
- 5) 藤野彰子, 褥そう予防, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 634-43.
- 6) 藤野彰子, がん患者の看護, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 644-59.
- 7) 藤野彰子, 患者教育の実践, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 660-73.
- 8) 藤野彰子, 危篤・終末期の看護, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 684-90.
- 9) 林 咲子, 心臓カテテル検査, 藤野彰子, 長谷部佳子, 安達祐子監修, 看護技術ベーシックス, 第2版, 東京: 医学芸術社, 2007. p. 382-91.

## 老 年 看 護 学

教授: 櫻井美代子 老年看護学  
准教授: 伊達久美子 老年看護学

### 教育・研究概要

老年看護学領域では, あらゆる健康レベルにある高齢者とその家族のニーズに応じた看護を提供するための研究を行っている。

#### I. 褥瘡予防の効果的な教育方法の開発とその評価に関する研究

老年看護学領域として, 看護学生が高齢者の褥瘡予防に向けた看護を考える能力を養うための教育方法を構築し, その評価を行うことを目的とした研究を開始した。本年度は臥床した際の全身にかかる体圧を視覚的にとらえることができる体表面接触圧測定器を用いた演習と対照群に対する調査を実施した。

#### II. 認知症高齢者家族の介護疲労に関する研究

櫻井は, 認知症高齢者を自宅で介護している家族の心身の疲労について研究を継続している。本年度は親を施設へ入所させるに至った家族が, どのような心理的葛藤を抱えているのかに着目して聞き取り調査をしている。

#### III. 高齢者の生活習慣と健康に関する研究

伊達は, 高齢者の生活習慣と健康との関連や身体活動量の変動要因に関する研究を継続している。現在は運動行動促進を目的としたテレビゲーム等の家庭用運動ソフト・器具を用いた健康づくりプログラムを高齢者が利用した場合の影響を調査している。

#### 「点検・評価」

教育面では, 1学年の定員数が増加しても, 体験型の学習や学内演習の質を低下させず, より高いものにするために十分な検討と準備を行って実施に至った。今後さらに力をいれていきたい。

研究面では, 本年度より老年看護学領域として, 褥瘡予防の効果的な教育方法の開発に関する研究を開始した。次年度に評価を行って, 看護基礎教育課程における新たな褥瘡予防の教育方法を提案していきたい。

### 研 究 業 績

#### III. 学会発表

- 1) 田代和子, 櫻井美代子, 高齢者のライフヒストリーインタビューを通じた学習効果—5年間の経年的変化—, 第12回日本老年看護学会, 神戸, 11月, [日本老年看護学会第12回学術集会抄録集 2007; 11: 81]

#### IV. 著 書

- 1) 堀内ふき, 櫻井美代子, 中村摩紀, 六角僚子, 鷹野和美, 関千代子, 浅野 均, 上原朋子, 佐藤圭子, 安川揚子. 2章1節: 加齢に伴う生活の変化, 2節: 高齢者の健康的な生活. 堀内ふき, 大淵律子, 金子昌子編. 第2版. 高齢者の健康と障害. 大阪: メディカ出版, 2008. p. 19-39.

### 精 神 看 護 学

講 師: 林 世津子

#### 教育・研究概要

精神看護学領域では, 地域で暮らす精神障害者への援助内容に関する研究, メンタルヘルス上の問題をもつ看護学生と教員との関わりについて検討してきた。

今回は, 近年増加傾向にある精神科個室病棟の看護実践に対する看護師の認識について, 面接調査をもとに検討した。看護師は, 患者一人につき1つ生活空間が提供されることにより, 患者の精神安定のしやすさや個別の関わりの持ちやすさなどに気づき, 一方でプライバシーの保ちにくさ, 心理的距離の保ちにくさ, 看護実践の見えにくさなどを感じ, 戸惑っていることが明らかとなった。

さらに, 看護実践におけるインフォームド・コンセントとして, 精神疾患患者への看護計画の説明と同意のプロセスに焦点を当て, 看護師を対象にした面接調査を行っている。

また, 慈恵医大第三病院森田療法室での看護経験者である助教を迎え, 入院森田療法における看護実践活動に関して検討を開始した。

#### 「点検・評価」

2007年度は, 精神看護学領域の教授の不在, かつ新任の助教を迎えたために, 講義や実習などの教育活動に多くの時間が費やされ研究活動が十分できなかった。今後は, あまり知られていない森田療法における臨床看護の知恵を明らかにすると共に, その知恵を活用し, 教育・研究活動の向上にも取り組んでいきたい。

#### 研 究 業 績

##### I. 原著論文

- 1) 林世津子, 寺岡貴子(慶應義塾大学), 池邊敏子(横浜市立大学). 精神科個室病棟の看護実践における看護師の戸惑いと気づき. 日精保健看会誌 2007; 16(1):

67-74.

### 小 児 看 護 学

教 授: 濱中 喜代 小児看護学  
講 師: 長 佳代 小児看護学

#### 教育・研究概要

##### I. 小児看護領域における基礎教育の現状と課題

昨年度の調査結果をまとめ, 日本小児看護学会において, 示説で発表した。今後のカリキュラムに活かしていきたい。

##### II. 小児看護領域における卒後教育の現状と課題

一昨年行った2つの研究を小児看護領域における卒後教育・指導に関連した新人看護師およびプリセプターの現状と課題として学会誌に報告した。

##### III. 小児看護の現場で生き生き働き続けるための教育支援プログラムの開発とその検証

臨床での小児看護の実践力や看護師の成長を助けるために, 教育と臨床とで連携・協働して小児看護の現場で生き生きと働き続けるための卒前・卒後に行う教育支援プログラムを開発とその検証のための研究に着手し, 教育支援プログラム卒前用試案をもとに研修会を実施した。

##### IV. 子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築に関する研究

科研の分担研究者として, 昨年行った研究の成果を2つの学会に発表するとともに, 日本外来小児科学会でテーマセッションを開き, 研究内容を外来の看護師と共有した。また昨年に引き続き, 基礎教育における外来看護実習のあり方についてフォーカスグループインタビューを2回実施し, 構築に向けた資料を得た。その一方でヘルスプロモーション促進に向けてプログラムの作成の検討を進めた。

##### V. 小児慢性腎不全患者の社会的成長過程の実際と情報提供による支援策の構築

長は, 小児慢性腎不全患者が社会的成長の過程で直面する問題と対処のありようをあきらかにし, 患児・家族へのよりよい支援体制構築のための基礎的知識とするとともに, 学校生活や進学就職に関する患児・家族の体験と情報をまとめた患児・家族向け小冊子の作成を行うことを目的として, 患児ならば

に家族へのインタビュー調査を行った。

#### 「点検・評価」

I・IIの研究を進展させて、今年度はアクションリサーチとしてIIIの実践的な研究に取り組むことができた。IVにおいては、多施設の協力を得て、研究の基礎資料を整えることができた。今後はこれらの研究を継続・発展させて成果を得ていきたい。Vの研究は、当初の計画どおりデータ収集を終えることができた。次年度、分析と考察を深めるとともに、研究結果の一部を関連学術集会において発表した。

### 研究業績

#### I. 原著論文

- 1) 濱中喜代, 花澤雪子 (元東京慈恵会医科大学). 小児看護領域における卒後教育・指導に関連した新人看護師およびプリセプターの現状と課題—総合病院における調査から—. 日小児看護会誌 2008; 17(1): 31-7.

#### II. 総説

- 1) 濱中喜代. 【病気の子どもの学校教育と学校生活の支援】病気の子どもの学校教育にかかわる臨床看護臨床看護と学校教育 入院中の支援. 小児看護 2007; 30(11): 1512-7.
- 2) 長佳代. 【病気の子どもの学校教育と学校生活の支援】病気の子どもの学校教育にかかわる臨床看護社会的自立の支援と看護. 小児看護 2007; 30(11): 1529-35.

#### III. 学会発表

- 1) 濱中喜代, 及川郁子 (聖路加看護大学), 川口千鶴 (自治医科大学), 長谷川桂子 (岐阜県立看護大学). 小児看護学における外来実習受け入れ病院・診療所の教育支援の現状と課題. 第54回日本小児保健学会. 前橋, 9月.
- 2) 長谷川桂子 (岐阜県立看護大学), 濱中喜代, 及川郁子 (聖路加看護大学), 川口千鶴 (自治医科大学). 小児看護学における外来実習受け入れ病院・診療所の外来看護の現状と課題. 第54回日本小児保健学会. 前橋, 9月.
- 3) 川口千鶴 (自治医科大学), 及川郁子 (聖路加看護大学), 濱中喜代, 長谷川桂子 (岐阜県立看護大学). 小児看護学における外来看護に関する基礎教育の現状と課題. 日本小児看護学会第17回学術集会. 松本, 7月.
- 4) 濱中喜代, 花澤雪子 (元東京慈恵会医科大学). 小児看護領域における『子どもの死』に関する基礎教育の現状と課題—その2. 日本小児看護学会第17回学術集

会. 松本, 7月.

- 5) 村松久江, 奥野順子 (東京女子医科大), 宗村弥生, 田久保由美子, 日沼千尋. 先天性心疾患の子どもの家族への説明に関する医師の意識. 第43回日本小児循環器学会総会・学術集会. 東京, 7月.
- 6) 村松久江, 宗村弥生 (東京女子医科大学), 田久保由美子, 奥野順子. 先天性心疾患の子どもをもつ母親の医師の説明に対する思い 第一報—医師に質問することへの母親の思い—. 日本家族看護学会第14回学術集会. 青森, 9月.
- 7) 宗村弥生<sup>1)</sup>, 田久保由美子<sup>1)</sup>, 奥野順子<sup>1)</sup> (東京女子医科大学), 村松久江. 先天性心疾患の子どもをもつ母親の医師の説明に対する思い 第二報—医師への信頼に関連する母親の思い—. 日本家族看護学会第14回学術集会. 青森, 9月.
- 8) 奥野順子<sup>1)</sup>, 田久保由美子<sup>1)</sup>, 宗村弥生<sup>1)</sup>, 村松久江, 日沼千尋<sup>1)</sup> (東京女子医科大学). 先天性心疾患の子どもをもつ保護者に対する医師の説明 第一報—保護者に伝えたいこと, 期待すること—. 第54回日本小児保健学会. 前橋, 9月.
- 9) 田久保由美子<sup>1)</sup>, 宗村弥生<sup>1)</sup>, 村松久江, 奥野順子<sup>1)</sup>, 日沼千尋<sup>1)</sup> (東京女子医科大学). 先天性心疾患の子どもをもつ保護者に対する医師の説明 第二報—うまく伝わったかの判断と困難なこと—. 第54回日本小児保健学会. 前橋, 9月.

### 母性看護学

教授: 茅島 江子 女性の健康と看護ケア  
講師: 細坂 泰子 周産期ケア, 月経研究

#### 教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し, 母性看護における看護援助のあり方について考察した。

#### I. 月経症状と女性の持つ健康観, 女性性および自身の体型への認識との関連について

本研究では女子学生394名を対象に, 月経症状と健康観, ジェンダー観および自身の体型への認識との関連についてデータを収集した。対象者は『自分自身』をもっとも健康に影響を与える因子として認識していることが分かった。対象者のうち, BMIが25以下であるものは93.5%にも関わらず, 40.1%の対象者が自身を「やや太っている」もしくは「太っている」と認識していた。各因子と月経症状との関連については分析途中であるため, 今後詳細に分析し, 学会等で発表する予定である。

## II. 思春期における健康問題と看護援助について

思春期の健康問題として、望まない妊娠・性感染症、自傷行為、悪性腫瘍を取り上げ、研究を行った。望まない妊娠・性感染症の予防意識に関する国際比較では、諸外国に比べてわが国では、性感染症の予防意識が低く、性交経験率が高いのに男性主体の避妊意識が強かった。自傷行為の研究の動向を調査し、1996年以降に精神科領域からの報告件数が増加し、患者への対応に苦慮した症例研究が増えていた。青年期の卵巣癌患者1ケースにインタビューを行い、自立心と親への依存心の葛藤の中で、親に支えられて療養生活を送っていたことを認めた。

## III. 院内感染における分子疫学的、薬剤感受性を用いた細菌学的調査

院内感染菌として、特に問題となることの多い *mecA* positive *S. aureus*、vancomycin 耐性および Linezolid 耐性 MRSA について分子疫学的、薬剤感受性の手法を用いて詳細に分析した。現在、抗 MRSA 薬として使用される各種抗菌薬には既に耐性を持つものも多く、今後も耐性菌の動向を追っていく必要がある。

## IV. 産科領域におけるスタンダードプリコーションに関する研究

病院に勤務する助産師を対象に、ケア時の手袋着用状況について質問紙を用いて行った調査に関して、学会発表し、今後さらに分析を進め、学会誌に投稿予定である。

### 「点検・評価」

日本女性はおよそ8-9割が月経随伴症状を抱えている。月経に対する肯定観を強めることはその女性の健康を守ることであり、重要な課題である。今回の調査から月経関連因子は月経症状だけでなく、その対象をとりまく様々な事柄を考慮して健康問題を解決しなければならないことが示唆された。今後も女性の健康問題をより向上させるために、研究を続けていく必要がある。

思春期の健康問題については、諸外国に比べて避妊や性感染症に関する認識が低い。さらに予防行動を促進していくための研究、自傷行為については、精神科領域の症例が増えているため、その予備軍についての研究、卵巣癌患者については、思春期であることの特徴を踏まえ、親やスタッフとの関係等、さらに研究を続けていく必要がある。

産科領域を含む院内環境は、現在も多くの感染問

題を抱えており、今回それらの基礎的データを収集したことでさらなる研究の発展に寄与できた。今後も引き続き、産科領域における感染に関する研究を進めていく予定である。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Hososaka Y, Hanaki H<sup>1)</sup>, Endo H<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Nagasawa Z (Saga University Faculty of Medicine), Otsuka Y (Social Insurance Central General Hospital), Nakae T<sup>1)</sup>, Sunakawa K<sup>1,2)</sup> (<sup>1</sup>Kitasato Research Center for Anti-infection Drugs, <sup>2</sup>Kitasato University). Characterization of the oxacillin-susceptible *mecA*-positive *Staphylococcus aureus*: A new type of MRSA. *J Infect Chemother* 2007; 13(2): 79-86.
- 2) Hanaki H<sup>1,2)</sup>, Hososaka Y, Yanagisawa C<sup>1)</sup>, Yanagisawa C<sup>1)</sup>, Otsuka Y (Social Insurance Central General Hospital), Nagasawa Z (Saga University Faculty of Medicine), Nakae T<sup>1)</sup>, Sunakawa K<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Kitasato Research Center for Anti-infection Drugs, <sup>2</sup>Kitasato University). Occurrence of vancomycin-intermediate-resistant *Staphylococcus aureus* in Japan. *J Infect Chemother* 2007; 13(2): 118-21.

### III. 学会発表

- 1) 花木秀明<sup>1)</sup>, 柳沢千恵<sup>1)</sup>, 細坂泰子, 石橋和重<sup>2)</sup>, 山本茂子<sup>2)</sup>, 今村 豊<sup>2)</sup>, 谷脇 智<sup>2)</sup>(<sup>2</sup>聖マリア病院), 砂川慶介<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>北里研究所). Linezolid 耐性 MRSA の細菌学的評価について. 第81回日本感染症学会総会. 京都, 4月.
- 2) 茅島江子. (会長講演)性の健康と月経. 第26回日本思春期学会. 東京, 8月. [思春期学 2008; 26(1): 7-12]
- 3) 佐藤 梓, 茅島江子. 若者の避妊・性感染症予防の意識に関する国際比較. 第26回日本思春期学会. 東京, 8月. [思春期学 2008; 26(1): 89]
- 4) 前田麻子, 茅島江子. 青年期にある卵巣癌患者のストレスとその対応. 第26回日本思春期学会. 東京, 8月. [思春期学 2008; 26(1): 100]
- 5) 依田 香, 茅島江子. 思春期の自傷行為に関する研究の動向～過去30年間の推移と背景～. 第26回日本思春期学会. 東京, 8月. [思春期学 2008; 26(1): 108]
- 6) 越田博子, 谷口千絵 (日本赤十字看護大学), 恵美須文枝 (首都大学東京). 周産期ケアにおける助産師の手袋着用状況と個人的属性との関連. 第22回日本助産学会学術集会. 神戸, 3月. [日助産会誌 2008; 21(3): 99]

#### IV. 著 書

- 1) 遠藤由美子 (山形大学), 茅島江子, 島田真理恵 (聖母大学), 寺口顕子 (名古屋市立大学), 仲村美津江 (琉球大学), 藤原聡子 (長野県立看護大学). 母性看護の概念. 川野雅資監, 茅島江子編. 看護学実践—Science of Nursing—: 母性看護学. 東京: 日本放射線技師会出版会, 2007. p.8-34.

#### V. その他

- 1) 茅島江子, 熊澤美奈好 (亀田医療技術専門学校), 森脇智秋 (徳島県立看護専門学校). 助産師学校閉校に関する調査. 全国助産師教育協議会平成 18 年度事業活動報告書 2007; 21-7.
- 2) 熊澤美奈好 (亀田医療技術専門学校), 茅島江子, 森脇智秋 (徳島県立看護専門学校), 恵美須文枝 (首都大学東京). 助産師学校運営財務モデル案. 全国助産師教育協議会平成 18 年度事業活動報告書 2007; 28-31.

### 地 域 看 護 学

教授: 奥山 則子 地域看護学  
准教授: 島田 美喜 地域看護学

#### 教育・研究概要

教育に関しては, 学生が学習しやすいテキストや教材など作成した。また, 基礎教育の到達目標や実習や履修時期などについて, 研究から得られた成果を教育実践に反映している。

研究に関しては, 上記の教育に関する研究の他, 地域終末期ケアに関するソーシャルキャピタル研究を行った。

#### 「点検・評価」

地域看護教育に関する研究では, 学生に理解しやすい適切な地域看護学の履修開始時期について調査を実施し, 3 年次開始にやや有意な結果が得られたが, 大学の教育理念や教育方法, 教員の指導方法などの要因も影響していることが考えられ, さらにこれらの要因を探る必要性が明らかとなった。このことから, 今後さらに要因分析の調査を継続する必要がある。

地域終末期ケアに関するソーシャルキャピタル研究では, ソーシャルキャピタルの構築が在宅死の希望と相関することが明らかになり, ソーシャルキャピタル構築には保健師が大きな役割を果たしていることも明らかになった。今後はさらにソーシャルキャピタルと地域の健康づくりなどの関係についての

研究を継続し, 保健師の役割を明らかにする予定である。

### 研 究 業 績

#### II. 総 説

- 1) 奥山則子. 保健師の保健指導は変化してきているのか. 保健師ジャーナル 2007; 63(6): 481-6.
- 2) 荒賀直子 (順天堂大), 後閑容子 (岐阜大), 鈴木るり子 (岩手看護短大), 奥山則子, 宮内清子 (愛媛県立大), 今井睦子 (千葉医療技術大学校). 保健師教育の技術項目と卒業時の到達度 (案) の提案. 保健師ジャーナル 2007; 63(11): 1000-5.

#### III. 学会発表

- 1) 後閑容子 (岐阜大), 荒賀直子 (順天大), 奥山則子, 宮内清子 (愛媛県立大), 鈴木るり子 (岩手看護短大), 今井睦子 (千葉県立医療技術大学校). 保健師のライセンスに必要な保健師教育の技術項目と卒業時の到達度 (案) の提案. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 松山, 10 月. [日公衛会抄集 2007; 343]
- 2) 島田美喜, 遠藤三恵 (宮城県気仙沼保健福祉事務所). 地域における終末期ケアのあり方に関する研究. 第 66 回日本公衆衛生学会総会. 松山, 10 月. [日公衛会抄集 2007; 386]

### 在 宅 看 護 学

准教授: 佐藤 正子  
講 師: 春日 広美

#### 教育・研究概要

#### I. 在宅看護学における e-learning システム活用に関する研究

在宅看護学の授業・演習・実習において, 2005 年より自己学習支援ツールとして e-learning システムを活用してきた。活用状況とその効果について, 限られた時間数の中で, 効果的に演習型授業を行うことが可能であること, 教員の同席が制限される在宅ケアの実習において, 遠隔的な学習状況であっても, 学生の学習ニーズに応じた教育が提供できることについて成果を得てきた。その成果は, 2008 年 1 月に開催された, 日本私立看護系大学協会の「看護および看護学教育に関する事業」で, 協会加盟校教員を対象に, 双方向型授業を紹介する基調講演およびパネルディスカッションの中で紹介した。今後は更に活用の範囲や方法を拡大する可能性について, 研究していきたい。



## II. 在宅がんターミナル期の療養者および家族に関する研究

### 1) 在宅がんターミナル期の療養にかかる費用と遺族の意識に関する研究

在宅で最期をむかえる患者（在宅においては「療養者」）の増加が見込まれる中で、療養者の経済的な側面にも配慮して訪問看護を行うことが重要であると着目した。そこで、在宅で最期をむかえたがんターミナル療養者の遺族に、最期の在宅療養期間にかかった療養費用と、その費用に対する遺族の意識を調査した。この研究は看護学科研究費によって実施した。

また、病院で最期をむかえたがんターミナル患者の療養費用とそれに対する遺族の意識に関して、笹川財団研究助成を受け、遺族に対する調査やホスピス病棟の看護師へのヒアリングを行った。得られた結果は、在宅での療養費用および遺族の意識と比較した。

### 2) がんターミナル患者を在宅で看取る家族への支援の現状と課題に関する研究

在宅がんターミナル患者の家族に対して、訪問看護がどのような支援を行っているか、療養中から看取り後までの看護師の関わりについて、訪問看護ステーションにおいて調査し、その結果を発表した。

## III. 進行性神経難病患者の日記分析による心的体験の構造に関する研究

進行性神経難病を患い、在宅で生活する患者についての研究として、筋萎縮性側索硬化症で在宅人工呼吸器を装着し、長期間の在宅生活を経て亡くなった患者の日記を分析する質的研究を行った。

## IV. 地域医療再生を目指す地方自治体の地域住民の医療に対する意識の変化に関する研究

市が財政再建団体となり、市営の病院が民間病院へと変わった地域において、病院民営化にともなう住民の医療に対する意識の変化、特に入院医療から在宅医療への移行に対する意識について、ヒアリングおよび調査を行った。また、民営化した病院の職員に対して、職員からみた、地域住民の医療に対する考え方の特徴や、民営化後の住民の変化などをヒアリングした。

### 「点検・評価」

在宅ケアの教育方法、訪問看護の対象の理解に関する研究を主に継続して実施してきた。今後はさらに、医療依存度の高い在宅療養者、がんターミナル、

重症神経難病療養者が増えてきている訪問看護の現状の中で生じる様々な看護の課題を調査し、必要な看護援助について研究をすすめていきたい。

教育活動について、基礎教育における在宅看護の教育は年々重視されてきている。その背景には、在宅移行が推進される一方で、訪問看護師数が不足しているという在宅看護の現状がある。将来訪問看護師として地域に貢献し、療養者の充実した在宅療養生活をサポートできる看護師を育てる教育が望まれている。そのため、今後はより在宅の臨床を意識した、特に訪問看護の技術的な面を強化した授業・演習を計画していきたい。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) 佐藤正子, 春日広美. 進行性神経難病患者の日記分析による心的体験の構造. ヘルスサイエンス研究 2007; 11(1): 51-6.